

第 15 回 北広島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議概要

| | |
|-------|---|
| 日 時 | 令和 2 年 12 月 25 日（金）書面会議 |
| 場 所 | — |
| 出席委員 | 山本一彦委員・浦野博之委員・小野麗子委員・小池隆史委員 ・宍戸圭子委員・壽福史人委員・丹野司委員・藤山康雄委員 ・奈良隆委員・二瓶文彰委員・深村真人委員・宮崎克宣委員 ・守山英男委員・吉岡広樹委員 |
| 欠席委員 | — |
| 事 務 局 | 川村企画財政部長・橋本企画課長・大川主査・村上主任 |
| 傍 聴 者 | — |
| 会議次第 | 1 報 告 （1）北広島市人口ビジョンの改定について（資料 1-1、1-2） 2 議 事 （1）第 2 期総合戦略の原案について（資料 2-1、2-2） |

1 報告

(1) 北広島市人口ビジョンの改定について

<資料 1-1、1-2 を各推進委員に郵送>

委員から提出された意見等

【A委員】

- ・人口減少問題については一朝一夕で解決できる特効薬がない中で子育て世代の転入超過は明るい光である。出生数の減少は若年層の流出（特に女性）、未婚率の上昇など複合的な要因が背景にあるかと思うが、同じ課題を抱えていると思われる石狩振興局管内の自治体と比べ（札幌、江別を除く）、合計特殊出生率が低い理由を分析しながら、出生数減少を少しでも緩やかにしていく対策を引き続き行っていただきたい。

【事務局】

- ・本市より合計特殊出生率が高い石狩振興局管内の自治体は、若い世代が多いことも一つの理由と考えられるが、引き続き産科誘致や教育環境の充実等、子どもを産み育てやすいまちづくりを進めるとともに、動向を踏まえた各施策の推進に努めていく。

【B委員】

- ・図表 16-1～20-1 までの関連を見ると北広島団地地区の人口と年齢3区分を参考に考えると、北広島の人口問題はこの団地地区が一番の課題地域と理解した。戦略の基本をこの地域に置き計画設計を進めるべきと考える。

【事務局】

- ・団地地区は他地区と比べ人口減少が進み、依然として高齢化率が高い状況にあることから、引き続き住み替え支援等、団地活性化につながる各施策を第2期でも継続して推進していくとともに、団地地区をはじめとした全市的な取組とあわせて人口減少対策を進めていく。

【C委員】

- ・20～24歳の転出が多いという現象は、他の都市（地方）も抱えている課題であり、若者に魅力ある企業が大都市に集中していることが一因と考えられる。転出抑制のため、若者が多いと思われるIT系企業の誘致やテレワークを積極的に行ってはどうか。若年～老年の生活に対応できるまちづくりと情報発信が大事になってくると思う。ビジョン改定の数値は決して不可能ではなく、ボールパーク等をうまく活用すると、それ以上の効果があると思う。

【事務局】

- ・魅力ある労働環境の構築については、若い世代のみならず、多様な働き手が安心して生き生きと働くことができるよう、環境整備を進めていくことが重要となる。

本年 4 月からスタートする次期総合計画においても、地理的優位性を生かした企業誘致の展開、情報通信事業等の分野における新たな産業集積の推進を位置付けている。

若い世代から高齢者まで住みやすいまちづくりを進めているが、いただいたご意見を参考に情報発信も含め引き続き取組を推進していく。

2 議事

(1) 第 2 期総合戦略の原案について

<資料 2-1、2-2 を各推進委員に郵送>

委員から提出された意見等

【A委員】

- ・様々な領域でボールパーク構想と連携していくことは、他自治体が模倣できない北広島市の絶対的な価値を生み出していくと考える。「ボールパークのまち」というアイデンティティは、定住・交流・関係人口の創出が可能となると同時に、市民の地域への誇り・愛着に間違いなく直結する北広島市にとっての大きな財産になっていくと思う。

【B委員】

- ・基本目標 1 について、産科の誘致は重要テーマであり粘り強く進める必要がある。基本目標 2 について、若い方々の将来プランの見えやすいまちづくりが必要である。結婚から小学校までの育児と中学・高校までの教育とで生活環境は大きく変わるが、老後はライフプランが見えやすいことを考えると、コンパクトシティ構想を具体化していくべき。基本目標 3、4 は上記 1、2 の計画を進めることで同時進行的に課題が見えてくると思う。

【事務局】

- ・本市においては、コンパクトシティを目指し、平成 30 年 12 月に策定した「立地適正化計画」に基づき、中心的な地区へ居住・都市機能を先導的に誘導し、まちの再生をけん引するため、①利便性の高い魅力ある拠点の創出（駅西口の整備等）、②若者・子育て世代から選ばれる魅力をもち、高齢者が安心して住み続けられる住環境づくり（住み替え支援や団地地区の容積率の緩和等）、③利用者ニーズに合った公共交通ネットワークの形成（さんぽまち・東部線の再編等）を進めている。今後についても、各世代の特色を踏まえ、暮らしやすい都市環境の形成を図っていく。

【C委員】

- ・子育て支援について、可能であれば各種相談の部分に発達に関する相談など児童発達に関する言葉があると親として心強く感じる。身体障害、発達障害があっても子育てしやすい環境であると良い。

【事務局】

- ・子育て支援については、すべての子育て世代一人ひとりに寄り添いながら各種相談や情報提供を行うこととしており、身体障害や発達障害など子どもの発達に関する相談についても内包するものとして表記し、広く子育て支援を進めていく。

3 その他

- ・特になし。